

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	高岡市きずな子ども発達支援センター（センター事業）			
○保護者評価実施期間	令和7年11月4日 ～ 令和7年11月14日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数)	28
○従業者評価実施期間	令和7年11月27日 ～ 令和7年12月3日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・単独通園を実施し、日常生活の中で食事、排泄、衣服の着脱など生活動作の自立、集団生活の中では、人との関わりを通して社会性が育つよう支援を行っている。毎日通園することで、一人一人に合わせた経験を積むことができる。	・クラスの子どもたちの発達段階や育てたい力に合わせた目標に沿って、PT、OT、STと保育がタイアップして、集団指導を実施している。 ・子どもたちの育てたい力、保護者のニーズも共有した上で支援目標を設定し、日々の支援を行っている。	・日々のセンターでの活動や、園外活動を通して、経験の幅を広げていく。
2	・保護者の学びや情報共有、保護者支援、家族支援の充実	・定期的に個別懇談を実施しているほか、連絡ノートや電話懇談を通じて、都度保護者の相談に応じている。 ・希望者を対象に、年間3クール（1クール6回コース）のグループペアレントトレーニング、必要に応じた個別ペアレントトレーニング、また年中児保護者を対象に就学講演会を開催して、保護者の学びや情報提供の機会を設けている。 ・年中、少児は年3回、年長児は年4回の親子学習を開催し活動を通してお子さんに合わせた関わりを実践する機会を持つことで、親子の学びにつなげている。 ・連絡メールを活用して、各種便りや緊急時の連絡、お子様たちの日常の活動の様子を配信するなど、迅速な情報提供を実施している。また、電子申請を活用して、行事親子学習の出欠や事後のご意見、感想など保護者の方が気軽に回答できるよう工夫している。	・定期懇談以外にも、必要があれば随時懇談の機会を設けていく。 ・ペアレントトレーニング、就学講演会開催についてクラス便り、案内文等で保護者へ広く周知を図る。 ・行事、親子学習の事後アンケート結果を活かし、今後の行事運営に反映させる。
3	・多職種の職員がお子様たちに関わっており、専門職同士の連携が取りやすく、幅広い視点で支援を実施できる。	・訓練士（OT・ST・PT）と連携を図り、定期的に活動に入ってもらっている。また、療育終了後にその日の支援内容を振り返り、クラス運営や個別の関わりに反映させている。 ・療育会議を実施し、主治医、看護師、相談支援専門員とも連携を図っている。	・各職種との連携がスムーズになるよう、定期的な情報交換の場や合同研修を実施する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・施設の老朽化対策	・施設設備が老朽化し、故障や一時的な使用停止を実施することがある。	・必要に応じて、補修や改修を行う。
2	・きょうだい児支援の充実を図る	・家族で参加できる行事「ふれあい学級」できょうだい児も参加している。開催回数は年1回と限定的である。	・限られた回数の中で、兄弟も満足感を得られるように活動内容の充実を図り、時間の取り方を工夫していく。
3	・インクルージョン支援の充実を図る	・希望者を対象に、年間で年長児3回、年中児2回、年少児1回で高岡市内公立保育園2園との交流を行っているが、回数など、参加者の満足度にばらつきが出てしまう。	・学年に関わらず、希望回数のニーズに応じた柔軟な回数設定を行う。 ・地域小学校就学を見据え、現行の園に関わらず、居住地園との交流の支援も行う。